

東アジアの鏡世界

小山田宏一(奈良大学)

目次

- 1 世相を映す鏡
- 2 三角縁神獣鏡の仏教意匠
- 3 鏡の呪術性
- 4 東夷の倭国、3・4世紀の鏡習俗

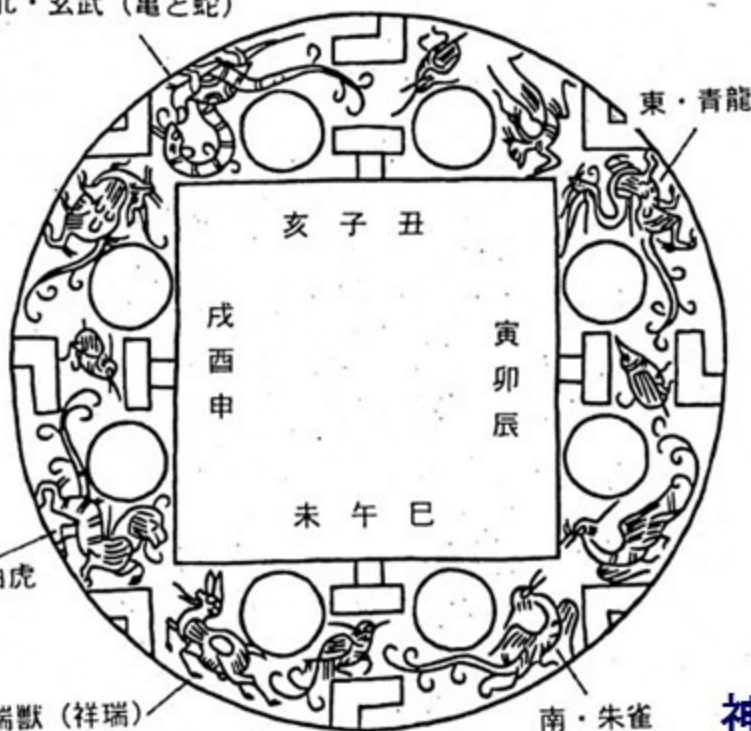
1世紀

方格規矩四神鏡の変遷

2世紀



北・玄武（亀と蛇）



3世紀

方形鈕孔



方格規矩鳥紋鏡（3世紀）

- 1世紀 大型鏡 20~23cm
精緻な紋様
- 2世紀 面経が小さくなる
紋様の簡略化
鳥紋に収斂
鳥紋の羽毛化
- 3世紀 1世紀の図紋復活
復古鏡・仿古鏡

神人龍虎鏡 / 2世紀



世相を映す方格規矩四神鏡の変化



椿井大塚山



太田南5号青龍3年(235)銘

前2世紀		
141年	武帝・西域と東方の経営	<u>儒教の国教学化</u>
前1世紀		世情不安
前漢末		
1世紀		儒教理念国家
8年	新・王莽政権	<u>儒教理念国家の完成・安定期</u>
25年	後漢・光武帝	
	周辺国々朝貢	
57年	漢倭奴国王・金印	
2世紀		政争激化
166年	党錮の禁	<u>世情不安(桓靈の間)</u>
		民衆の反乱
184年	黄巾の乱	
180年頃	倭国大乱・卑弥呼共立	三国鼎立
3世紀		中原の混乱・洛陽廃墟
220年	魏王朝・曹丕(文帝)	<u>儒教独尊主義</u> 文帝224年詔
		民間信仰の弾圧 明帝233年詔

民間宗教を排除する魏は、儒教理念国家の復活を目指した。このような時代の中で、儒教理念国家の完成・安定期であった後漢1世紀の方格規矩(四神)鏡は復活した。